

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中にある「家庭」であることを重要視した理念である。地域自治会の催し物や行事に参加したり、地域の方々に来館していただいたり、日々の散歩などにより地域の四季を肌で感じたりなど、地域生活を実践している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関ホール、事務室内、フロア内など共有スペースに掲示することにより、日々業務開始時や接遇中に意識し実践できるように取り組んでいる。理念のもと穏やかで温かみのある言葉使い、態度、視線など、家庭的な雰囲気作りを心がけている。	○	理念を目標といった形にし、より具体化させ、活動に生かす。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念を玄関ホールに掲示して、利用者・家族・来館者などがいつでも見ることができるようにしている。またパンフレットや説明書類に記載し、入居時には説明を行なっている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者が日々日常的に行なっている散歩の時など、利用者を通して交流を図っている。近隣の野菜直売店主との往来交流なども行なっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加盟している。市域の行事は回覧板をチェックし、芋掘り・獅子舞などに参加、見学している。隣接老健の夏祭り等にも参加している。その他地域の小学生の来館による交流なども行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>利用者の家族などを通して、近隣者へのホーム紹介や見学、相談などを受けている。しかし具体的には不足している、</p>	○	<p>地域とホームのつながりが深まる関係作りを事業所内で検討する。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年の評価に対しての要改善事項について理解し、改善に取り組んでいる。評価結果についてはスタッフ、来館者ともに閲覧できるよう、玄関ホールへ設置している。また、家族に対しては評価結果の写しを個別に配布している。今評価に際しては、それぞれスタッフが関わられるよう役割分担をして取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>未開催。</p>	○	<p>他のグループホームなどと連携を取り学んでいく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>書類提出の際に訪庁するなどをして、情報交換や入手を行なっている。具体的には不足している。</p>	○	<p>連携方法について検討する。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>まずは管理者が学んでいる。現時点では該当者がなく制度利用に至っていない。今後必要性の生じるであろう一部の対象者及び関係者とは相談を行なっている。</p>	○	<p>先を見据え、余裕を持って対応、活用できるような体制作りをする。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員の研修参加などにより理解を深めている。事業所内では利用者の身体状況の観察により注意を払っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明とともに、十分に時間をかけて丁寧に行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情申し立てについて説明している。また日頃から相談しやすい親しみやすい関係を作り、対話傾聴している。普段の何気ない交流の中から利用者の感情を汲み取れるよう心がけている。具体的内容については経過記録などに記録し、ユニット会議やカンファレンスなどで検討などを行い、利用者説明している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的(1/月)に写真付きの家族通信を発行して、ホームでの様子を伝えている。家族からの評判も良好である。その他直接連絡、あるいは交流目的の来館を依頼して、定期的な報告を行なっている。金銭については金銭出納帳を月ごとに送付し報告を行なっている。	○ 家族通信の安定化と充実化。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情相談体制について説明している。また、家族の方からも相談しやすい親しみやすい環境を作るよう心がけている。具体的内容については、迅速な対応を心がけ、サービス改善、質の向上に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の交流を通じて意見を言いやすい環境を作り、個別面談や定期的な会議などの際に意見を求め、聞き、必要事項について反映させている。利用者の受け入れに際しては判定会議を開催し、情報を共有している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	概ね利用者、家族の要望に合わせて対応できるよう柔軟に調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力していないが、1階と2階が「お隣さん」的な感覚で利用者スタッフとも日々行き来しているなど、利用者へのダメージを防ぐようスタッフに関わるよう配慮している。実際に現時点で利用者の大きな変化は見受けられない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修通知を行い参加しているが、スタッフ独自のものが多く、研修計画は不十分である。	○	具体的な計画を立案する。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークに加入しているが、現時点では個人的な活動にとどまっている。	○	交流会に参加する。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスが軽減できるよう、まずは勤務状況(体制や配置)が個々の負担にならないよう十分に留意している。また、運営者と管理者、管理者とスタッフ間などお互いコミュニケーションを図っている。スタッフの声を聞きながら、休憩時間と場所を確保している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持って働けるよう、まずは勤務状況(体制や配置)が個々の負担にならないよう十分に留意している。また、個々の資質を生かし、役割分担を行なっている。年二回健康診断を実施して健康管理を行なっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは相談しやすい環境作りを行なっている。相談時間に余裕を持ち、じっくりと傾聴したり対話したり、安心できる言葉掛けを行なって、現状や主訴を理解する。結果、信頼関係の構築が可能となるよう心がけている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは相談しやすい環境作りを行なっている。相談時間に余裕を持ち、じっくりと傾聴したり対話したり、安心できる言葉掛けを行なって、家族の現状や家族の主訴を理解する。利用者と家族の意向は適宜分けて考える。結果、信頼関係の構築が可能となるよう心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用に繋がらない相談者に対しては、他のサービス資源の紹介や継続相談等も行なっている。必要に応じて隣接老健などの紹介を行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ずスタッフが本人(宅)を訪問して、対面して事前交流をしたり(必要に応じて複数回)、本人の見学や体験(お茶の時間等に来館)などにより交流を行なうなど、工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	まずスタッフが入居時に本人の生活暦を十分に把握、理解する。その培われた生活暦に沿ってその人らしく生活していただけるよう関わっている。利用者と第二の家族的な感覚で関わり、スタッフの日常を伝え、泣いたり笑ったり楽しんだり、お互いのその時を共感している。また時には利用者から文化や教養など教えていただくことが多々ある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	交流を図ることにより、それぞれの家族の立場を理解して関わっている。家族から介護方法などを教えていただき、ホームでの生活を一緒に考える。時には利用者とは関係しない会話などにより信頼関係を深めることもできる。	○	利用者にとってもっとも縁の深い家族と時間や感情を共有する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係が良好であれば、引き続き家族が関われるよう機会作りをしている。家族関係が良好でない場合については特に注意を払い、時間をかけて少しずつでも改善できるよう働きかけ、支援を行なっている。電話、メール、手紙などを利用しての近況連絡など。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや手紙の送付など、関係者間で可能な範囲で継続できるよう支援している。ごく一部の利用者は携帯電話を所有している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個々の生活を大切にした上で、お互い仲間として交流が持てるようコミュニケーション支援を図っている。トラブルなどに対しては、予兆を見つけ最小限に止めまた継続しないよう配慮している。利用者同士で支え合う助け合う関係を作れるよう支援している。(散歩時・移動時手を引いたり、洗濯物を畳んで届けたりなど)	○	趣味(余暇)活動を活性化して、入居者同士の交流を深める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要者に対しては、遊びに来館していただいたり継続して連絡を取り合うなど、一度生まれたつきあいを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはアセスメント記録を元に入居判定会議を行ない、意向把握に努めている。入居後は何よりも日々の(言語・非言語)コミュニケーション持って意向を把握し、定期的なカンファレンスなどを通して検討を重ねている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族や利用者との事前面談やケアマネージャーなどを通して、今までの生活歴やその人となり聞き取り、把握する。入居判定会議を行ない、その情報をスタッフが共有する。入居後も継続して家族スタッフ間で情報交換を継続して、情報を積み重ねている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	対応するスタッフが利用者一人ひとりの生活リズム、生活状況の見守りを行い、小さな変化にも気づくように努めている。そしてその気づいた情報を全スタッフが周知共有できるように徹底している。スタッフは利用者の「できること」を新たに把握できるように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族との交流をもとに、フロア会議やカンファレンスなどを通してスタッフから意見や考えを聞き、一人ひとり個別的な介護計画を作成している。また、作成した介護計画は職員が常時意識できるよう工夫している(カードックス内に表示)。	○	今後は必要に応じて定期的な家族カンファレンスを開催する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の2回行なっている申し送りにて、状態変化についてはスタッフ間で迅速に連絡合っている。必要に応じて家族へ連絡、カンファレンスを行うなど、適宜対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録管理はカードックスを使用している。日々の状態はバイタルチェック表を使用して、利用者一人ひとりの情報を一目で把握できるよう、工夫を凝らしている。具体的な個別対応についてはカードックス内に表示し情報を共有、ケアの統一につなげている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	付添い送迎のサービスを提供し、外出支援や受診支援などを行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	演奏関係(ジャズバンド、コーラス、子供の合唱、しの笛など)の各種ボランティアの協力を得ている。また、希望者には2週間に1回訪問理美容、1週間に1回鍼灸、1週間に1回訪問パン屋のサービスを利用している。	○	その他の資源も検討していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外のサービスとして市のオムツ助成の利用者がいる。必要に応じては前任ケアマネジャーと情報交換をしているが、今のところ該当サービスは無し。また他の介護保険サービスを自費で利用したいとの希望はまったく無し。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では事業所内で解決困難な問題はなく、包括との協働は事例無いが、高齢者支援担当者と適宜連絡を取ることがある。	○	今後長期的に見据えて、包括との連携を検討。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者はなじみのかかりつけ医の継続的な医療を受けている。また別に(2回/月)事業所協力医の往診を家族同意のもと行ない、直接医師が家族へ病状説明を行なうなど、医療支援を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医へ相談している。今後は必要に応じて協力医から他院への紹介などの協力依頼も検討したい。元々認知症専門医の治療を受けている利用者の方は、継続治療を行い家族を通して情報交換などを行なっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している同法人の老人保健施設と連携を持ち、日常的な健康管理の相談から状態変化時まで適宜協力を求め、支援を行なっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	同法人内のクリニックと連携を密に持っている。他院へ入院した際も担当者と情報交換を行なっている。利用者が入院中ストレス大で入院継続困難な場合など、早期退院を受け入れている。また入院中のスタッフによる面会を適宜行なっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の事業所の対応について説明を行なっている。	○	重度期に向けての話し合いを、家族、本人、主治医と行い、対応方針を統一していく必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に対しての具体的な取り組みはない。	○	本人がより良く暮らせる環境を判断し、事業所としてどこまでできるのかを具体的に見極めていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームからの転居に際しては、本人の生活状況やケア方法の情報を伝えるなど、情報連絡に努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけないよう日々の接遇に努めている。気づいた時はスタッフが互いに声をかけ合える関係を心がけている。個人情報の取り扱いについては掲示し、意識を持ちつづけるように努めている。ケースファイルや書類などは鍵付きの書類棚にて保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉での正確な自己決定が無い場合でも、表情や行動、言動から本人の意向を汲み取り、自己実現のための支援を行っている。スタッフは利用者の細部にわたるサインに気づくよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れ(スケジュール)はあるが、本人のペースに合わせてゆったりと日々生活できるよう、利用者主導の環境作りを心がけている。また、状態が違う方々との共同生活の中で、一人ひとりが満たされるよう柔軟に対応している。健康に支障がない範囲で、就寝時間後におしゃべりやお茶を楽しんだりしている。その時その時を「楽しい」と思って過ごしていきたい。	○ 一人ひとりの余暇活動などの充実化を図る。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2週間に1回、訪問理美容利用している。利用者個々の希望に合わせてカラー、パーマ、カットを行なっている。希望(女性)利用者に対してはマニキュアや化粧の手伝いをスタッフが行なっている。また身だしなみについては、本人の好みで整容できるよう、自己選択していただく。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力と適正を考慮して、食事一連の作業全般に利用者が楽しみながら参加できるよう取り組んでいる。スタッフも入居者と食卓を囲み、同じ食事を一緒に味わいながら見守りや介助など対応している。また、個人の使い慣れた馴染みの湯のみやお茶碗、箸を使用して家庭的な雰囲気を作り出している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品(酒)は医師と相談しながら、健康上問題が無ければ提供は可能。定時以外の飲み物、おやつなどは自宅同様に日常的に楽しめるよう、好みに応じ就寝時間後も含めて個別対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	要排泄介助者に対しては、排泄チェック表などで一人ひとりの排泄パターンをつかみ、トイレで自然に排泄できるよう支援している。オムツ利用者に対して夜間は約2時間おきのオムツ交換を行ない清潔を保持している。排泄が食事、睡眠、心身機能改善に直接つながるため、基本かつ重要な支援と考えている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間は固定していない。本人の気持ちを優先し、かつ当日のバイタルチェックを含め体調に留意した上で入浴を行っている。湯温や入浴の長さなども適宜対応している。現在は「必ず夜間入浴」の対象者がいないため日中のみの対応となっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、ホールでのDVD上映、自室での読書や余暇活動など一人ひとり自由に時間を使い入床されるなど、基本的に個々のリズムで生活していただいている。希望時にミルクの提供を行なっている。また、寝具に関してはシーツ交換や布団干し(乾燥)を適宜行なっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯・調理・配膳・食器洗い・裁縫など、日々の生活の中で利用者の得意なこと、役割を見つけ、一つでもできること、やりたいことに参加していただく。利用者個々の能力を最大限生かせるよう、生活支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者は限られているが、訪問パン屋や散歩時の買い物、自動販売機の設置など、金銭を利用する機会を設けている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じてではあるが、散歩に出たり外庭での日光浴を行ったり、外気に触れる時間を作っている。また、近隣へ車で出かけたりなども適宜行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お正月は神社への初詣、春には公園へのお花見など季節ごとにドライブを行ったり、時には近隣のデパートへ行ったりなど出かける機会を作っている。より個別的な家族との外出については、家族と連携を図り全面的に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の送付は、受け取り側の意向を踏まえた上で、個別に対応している。利用者本人が直接ポストに投函することもあり。ごく一部の利用者は携帯電話を所有している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本的に訪問時間の制限は行っていない。面会場所の決まりもなくホールや自室どちらでも自由に使ってもらっている。適宜スペース確保や、配茶したりするなどをして、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。面会者については面会簿にて管理している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。鈴(ドアに取り付けたり)やセンサーマットなどを必要時利用して危険防止を図っている。行政からの伝達事項の回覧などにより意識している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室ドアに鍵は無い。居室の窓、玄関はともに日中は施錠していない。ただし、フロアのドアについては入居者の方の安全のためには施錠が必要であり、家族の希望や理解を得ている。また、総合的に判断すると継続的な弊害は出ていないと思われる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室時は適宜訪室をして、ホール時は見守りをして、さりげなく所在、様子を確認する。夜間はラウンドを徹底し、スタッフはフロアに常駐している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	毒性洗剤や刃物、調味料などは簡易施錠により管理している。利用者によっては、自室でハサミや針を管理されたり、石鹸や洗濯洗剤を使用されたりなど、個々の状態に応じて自然な日常生活を営まれるよう取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	見守りと利用者の状態把握、環境整備を徹底し、事故防止に励んでいる。ヒヤリハット発生時などは、ふり返りを行い再発防止に生かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員は行なっていない。	○	今後定期的に訓練を行なえるよう、関係機関と調整したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと消防訓練を実施し、避難誘導できるよう備えている。	○	地域の協力については、今後働きかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と連携を密に取り、話し合っている。入居時～入居後～状況変化に応じて適宜繰り返し行ない、第一に安全を考慮している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日10時にバイタルチェック行なう他、食事、水分摂取量、排泄状況などをバイタルチェック表に記録確認共有し、常に変化や異変の発見に努め、早期対応を心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個々の薬ボックスにて分薬している。毎回の内服はバイタル表にてチェックしている。使用薬については職員が常時意識できるよう(カードックスに)表示している。新たに追加薬が発生した際には、しばらく経過や状態変化に留意し、医師に連絡している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々排泄チェックを行なっている。水分、食事、運動のバランスを図り自然排便を促す努力を図っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けや必要に応じた介助などにより、うがい・口腔ケアを徹底している。また週に1回利用している訪問歯科医より指示を受け対応し、清潔保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェック、確認している。献立は管理栄養士が作成し、基本カロリーバランスは管理されているので、調理する際の味付けに留意している。またおかゆ刻み食など個々に適した食形態にて提供している。摂取量不足時は好みに応じて摂取可能なもので捕食捕水している。麦茶白湯を常時完備。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	行政からの伝達事項の回覧などにより意識している。また、日々利用者スタッフともに手洗いうがい、掃除・マニュアルに沿った消毒を徹底して行なっている。感染症流行に備え、マニュアル等を全職員に配布・確認し、対応できるよう徹底を図っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	特にキッチン内の除菌消毒と調理に携わる際は利用者スタッフともに手洗い消毒を徹底している。食材は日配に業者調達を行なっているため、新鮮かつ安全であると思われる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場や玄関周りには植栽や草花を植えるなど、雰囲気作りを行なっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を置いたり、壁面には利用者の目線の位置に時計設置、カレンダーの掲示、利用者作成したかわら版や俳句などを飾り、家庭的な雰囲気作りを行なっている。またテレビ音量や会話の音量、日差し照明等音と光は適宜調節している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、談笑したり、独り休息したりなど自由に過ごしていただけるよう、テーブルや椅子、ソファの置き方を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、入居者が家庭で使い慣れたものの持込をお願いしている(寝具、家具、衣類、装飾品、写真、人形、仏壇など)。各自のものを持ち込むことによって、大きな違和感無く安心して過ごしていただけるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は毎朝必ず行なっている。フロア内には季節ごとの適温を掲示、温度湿度計を設置し、常に適温適湿を意識して快適な環境整備を徹底している。また居室内は個々の体感が変わってくるため、状態や反応に応じて換気、空調管理とともに衣類調節を行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内(ホール・階段・トイレ・浴室など)の手すり、車椅子用の広めのトイレ、フロア移動用のエレベーター設置など、自立した生活を支援。さらにの危険防止と安心して動ける空間作りを行なうなど、環境整備の徹底を図っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室などは分かりやすく表示している。また椅子には名前表示、居室に関しては名札のほかに大きく表札を掲示したり暖簾をつけたりすることによって、自室認識が可能となった。一人ひとりの状態に合った対応を工夫することにより、混乱が軽減されている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには植木が置いてある。中庭には植栽や花壇などがある。これらを利用者が鑑賞したり、手入れしたり活動を楽しまれている。また中庭に設置しているベンチを利用して外気浴を行なったり、夏には夕涼み会を行なったりして楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 役割などできることを持って、生き生きと暮らしていただくよう努めている。
  2. (天候にもよるが) 散歩など外気に触れる機会を多く作っている。
  3. 一人ひとりの心配事に柔軟に対応して、安楽に過ごしていただくよう努力している。
- ※97の項目については「運営推進会議を通して～」とあるので、未開催の為④とした。